

日本における地域創生の歯車が回るために

現在、地域の活性化について「6次産業化」や「地域創生」などのキーワードを中心に産官学で取り組みがなされています。特に学問的には、どのように地域を都市一極集中から、地域活性化にシフトできるか研究、議論がなされています。また、政府からは財政的な支援もあります。しかし、必ずしも投じた金額に見合った効果が出ているとは思えないのが現状です。

一方で、成功事例も報告されています。今回は、行政サイドから東日本大震災で被災した立谷市長、大学から経済学の中村教授にご登壇いただきます。そして、宮城県の農家であり農産物販売会社代表の早坂氏から民間の取り組みの成功事例をお話いただき、そのあと現在抱えている問題点や悩み事を共有しながら、最後に企業がどのように参加すべきかについて意見を交わしながらトークを展開します。

2019年7月12日（金）16時 ※17時半～情報交換会

東京農業大学 農大アカデミアセンター B1 **横井講堂**

アクセス ●小田急線経堂駅 徒歩約15分 ●渋谷駅西口からバス 約30分「農大前」下車

申込不要・参加費無料 学生・一般の方もお気軽にどうぞ！

コーディネーター **山本 祐司 氏** 東京農業大学副学長 兼 総合研究所長

パネリスト **立谷 秀清 氏** 相馬市長（全国市長会長）

1951年6月福島県相馬市生まれ。福島県立医科大学医学部卒業。1983年4月 立谷内科医院開設。1986年12月 医療法人社団茶畑会理事長就任。1995年4月30日 福島県議会議員1期。2002年1月19日 相馬市長就任（現在5期）。2018年6月6日 全国市長会長就任。著書「東日本大震災 震災市長の手記―平成23年3月11日14時46分発生」2017年9月1日（近代消防社）ほか。東日本大震災発災直後から相馬市の農業に向け支援をいただいている東京農業大学と2018年12月20日に包括連携協定を締結。東京農業大学客員教授。



中村 正明 氏 関東学園大学 経済学部経済学科 教授

■関東学園大学 経済学部 教授 地域経済デザインコース担当／地方創生研究所 研究員 ■東京農業大学 客員研究員 ■大丸有「食」「農」連携推進コーディネーター ■東京農業大学農学部農業経済学科卒業の教員・研究者の傍ら、行政の各種委員やコーディネーター等を務め、産・官・学・民の連携や協働をコーディネートしながら、地域活性のトータルプロデュースを手掛ける。さらに、6次産業化プランナーとして、都市と地域をつなぎ、生産者や研究者、企業等とのネットワークをいかした6次産業化や農商工連携による商品開発・ブランディング・販路開拓など、ソーシャルビジネスのコーディネートにも力をいれている。



早坂 正年 氏 ブルーファーム株式会社 代表取締役／プロデューサー

1980年愛知県知立市生まれ。2003年東北芸術工科大学卒業。2003年大手カタログギフト会社入社。入社5年目には雑貨MDの責任者として、国内・海外の雑貨仕入れを担当、雑貨責任者を2年経験し食品MDの責任者となる、食品MD責任者として大手雑誌社との通販事業の立ち上げ、新事業立ちあげを行う、2013年妻の実家の婿に入り家業である米農家の14代目として米作りを始める、2014年6月東北の農産物を販売するブルーファーム株式会社を設立、2015年1月一次産業をブランディングするためクリエイティブ事業を開始、2017年「農家ジャパン」、2018年「農ドル」、2019年「TOUJI JAPAN」など一次産業にイノベーションを起こす様々企画を立ち上げ実行している。

